

南部小学校の「子育て講座」

平成22年2月18日
15:30 図書室

進行：佐藤母親委員

- 1 開会のあいさつ 西田母親委員
- 2 校長あいさつ（講師紹介含む）
- 3 講演（演習も含む）
演題 「子どもの見方・親の接し方」
講師 山形大学教職研究総合センター 松崎 学 氏

4 感想

5 お礼の言葉 秋葉母親委員長

6 閉会のあいさつ 戸田母親委員



「子どもの見方・親の接し方」

山形大学地域教育文化学部附属教職研究総合センター 松崎 学

1. 演習：自分の子育ての“クセ”を知る

(1) 子育て自己診断チェックリストの記入

- ・質問項目に対する自分の思いに合うところに○をつける
- ・すべての項目に

(2) 集計

- ・各質問項目の尺度得点を、表に記入する。
- ・A-Eの、それぞれの合計得点を計算する。

(3) 図示

- ・それぞれの得点を図中に記す。

(4) その説明

資料をもとに

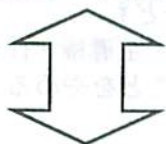
演習を通して気づいたことは？

2. そのような親(A・B・C・D)の行動の背景にあるもの(悪循環の構図)

そういった親に悪気はない(“良かれ”と思って)が、

- ・子どものためには何でもしてやらなければならないと信じている。
- ・その結果、子どもが何をどうしているか目を光らせ、子どもが困ることにならないように次から次へと先取りして指示・命令などによってお節介を焼く。
- ・子どもの行動の責任はすべて自分にあると信じている。子どもの言動は、自分の親としての能力を反映していると信じ込んでいる。
- ・世間体にこだわるあまり、子どもの責任を自分で引き受ける。
- ・目標をあまりに高く設定して達成を要求する。 (“いい親”)

↓ その結果、
子どもから、自信と自立心・やる気を
奪うことに。



社会背景

- ・親に対する誤った期待
- ・過ちにこだわりすぎる社会

3. 子どもを尊重するということ (STEPでは“責任感ある親”へ)

(1) 責任感と協調性のある子どもを育てることに対して責任感ある親になるために

- ・子どもに哀れみをかけ、かばうことで、失敗経験に出会わせてもらえない状況を断つ。
- ・やさしく、かつ、毅然と、子どもに経験させて、そこから自分で責任をとることを学ばせることを選択する。
- ・子どもを自分と同じ一人の人間として扱おうと決断し、失敗経験からよりよい行動を学び取ることでできる力をもっていると、子どもの力を信じる。

例1. リビングのテーブルで勉強していた子どもがコップをひっくり返してしまうと、……
 < “いい親” の対応 >

< “責任感ある親” の対応 >

例2. 幼稚園バスに乗り遅れた年中児に……

< “責任感ある親” の対応 >

例3. 「毎朝、起こさないで自分で起きることができない子なんです」というお母さんの相談に対して……

(悪循環を整理すると)

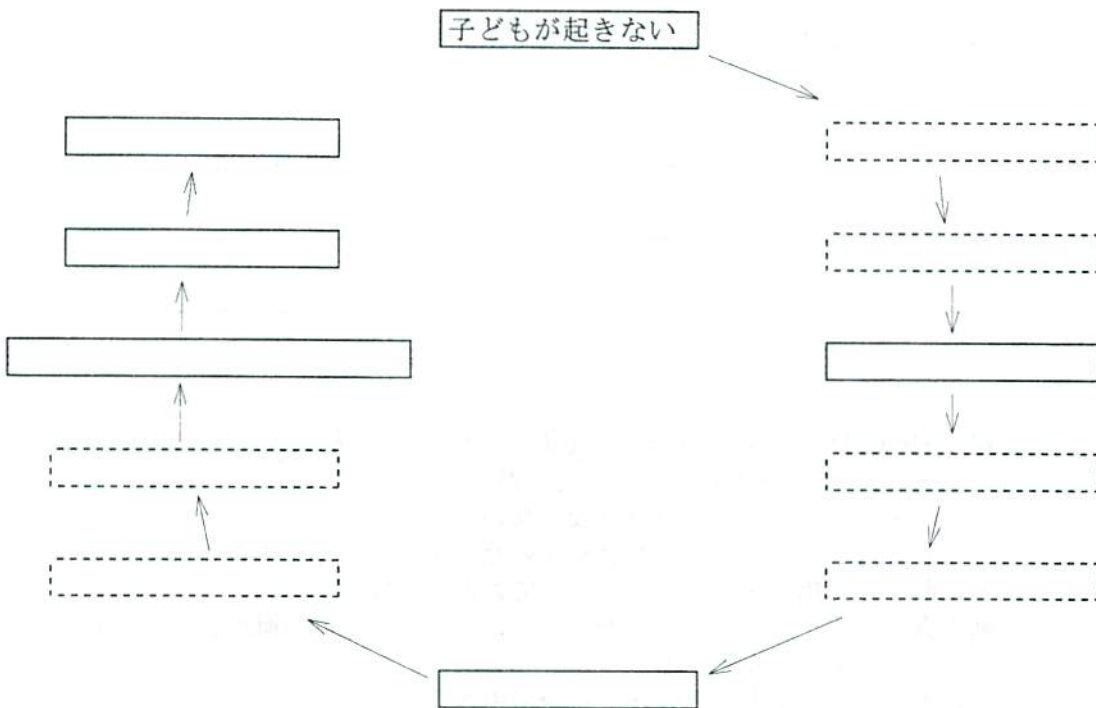


図1. 毎朝繰り返されていたかもしれない悪循環

解決に向けて…

- ① “誰にとっての問題か” (親・子ども)
- ② 子どもの“好ましくない言動”の目標は? 関心・主導権・仕返し・無気力
- ③ 一つの解決策：問題を子どもに返す／親が引き受けることをやめるという決断をする
- ④ あらためて、子どもの能力を信頼する
- ⑤ 解決への模索を子どもに委ねる

子ども自身が問題に苦戦しているとき（子どもの問題）

(5)子どもの問題を取り上げて教えることなく、子ども自身の問題解決を支援する方法

○“反響的な聴き方”と“問題解決への模索”（親学習プログラム STEP）の流れ

- ①“反響的な聴き方”をして、子どもに自分の気持ちをはっきり認識させる。
- ②子どもとブレイン・ストーミングをして、さまざまな解決策を考えられるようにする。
- ③考えついた方法の可能性を子どもがいろいろ検討できるようにして、その中から選択させる。
- ④選択した解決策を実際に行うときにどんなことが起こるかを話し合う。
- ⑤実際に実行に移すような決断ができるように勇気づけ、親子間で約束する。
- ⑥後日、うまくいっているかどうか、親子で話し合う日時を決める

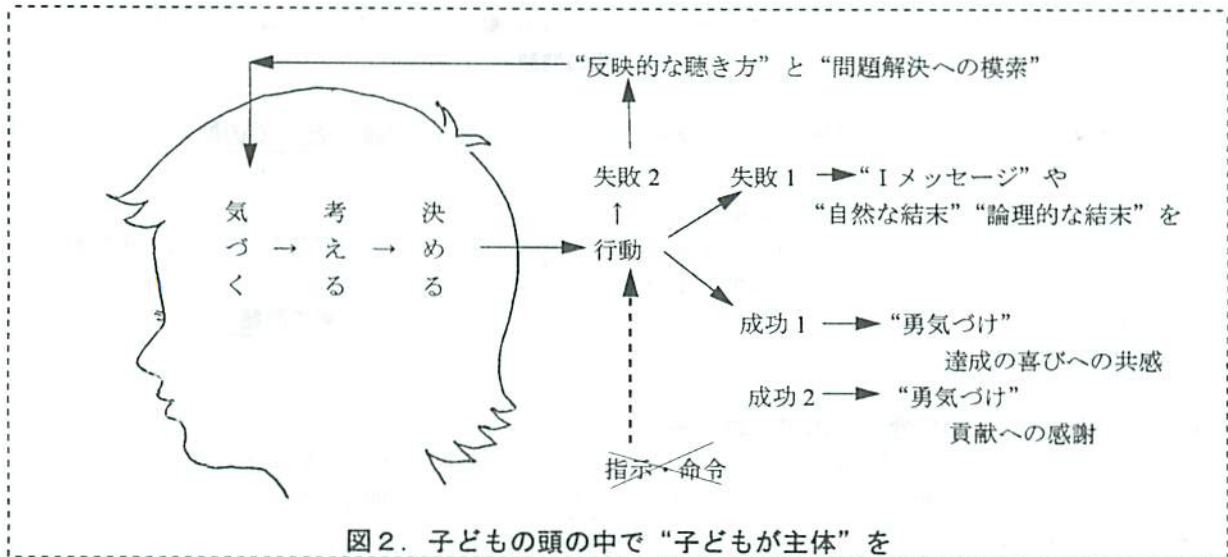


図2. 子どもの頭の中で“子どもが主体”を

演習：別紙を使ってロールプレイを行い、親からこのような対応を受けたときの子どもがどう感じるか（自分に対して&親に対して）味わってみよう。

（自分に対して）

（親に対して）

子どもが建設的な言動を示したとき

(6) “ほめる”のではなく、“勇気づけ”を！

“勇気づけ”（親学習プログラムSTEP: Systematic Training for Effective Parenting）を通して

勇気づけの例：自分で何かをうまくできたと喜んでいる子どもに、「自分でうまくやることができるとてもうれしそうだね」と達成の喜びに共感する。⇒ 自分自身の達成そのものがうれしいので、次回への意欲につながる。

例2：片づけなど手伝ってくれた子どもに、「手伝ってくれてありがとう。おかげでとても助かったよ」と貢献への感謝を伝える。

例3：「ボクが悪いことをするのは、先生がボクをちゃんと叱らないからだ」という子どもに……（子どもの能力への信頼）



勇気づけの基本原則：子どもにとって、身近な大人が自分の力を信じてくれて、自分で自分の力を信じることができる時、持っている力を発揮することができる。

表3. “ほめる” ことと “勇気づけ” の違い (柳平, 1998)

	ほめる	勇気づけ
対象	できる子ども	できる子どももできない子どももだれでも
考え方	・親の価値判断を押しつける ・一種のほうびとして勝った者、一番よい者に与えられる	・子どものありのままを評価し受け入れる ・どれだけ努力し、どれだけ進歩したかを認める
競争原理のタイプ	対他競争(他人との競争)	対自競争(自分の中でよりよくなるとうとする)
感情その結果	親の感情を伝える 周りの評価を気にする自主性のない子	子どもの感情を認める 自分でやる気を起こす自立心のある子

所属感を育てるために…

(7) 集団討議における問題解決への支援

例. チャレンジ・キャンプでの自由献立で……

5. おわりに

(1) アドラー心理学における教育と子育ての目標

行動面の目標

- ① 自立する
- ② 社会と調和して生きる

それを支える心理面の目標

- ① 私は能力がある
- ② 人々は私の仲間である

「行動は信念から出てくる」と考えるので、適切な信念を育てることを重視する。

ライフスタイル：自己や世界についての意味づけの総体

* 適切な信念を育てることのできる教育と子育ての方法を、注意して選択しなければならない。

(2) 親・教師—子ども間関係の民主化の課題

- ・ 21 世紀を生きる子どもは、今以上に相手をも自分をも尊重して生きる真に民主的な生き方を学ぶ必要がある。それを子ども時代に体験させるのが、我々大人の責任だと考える。
- ・ 教育と子育てにおいて、アドラー心理学ないしは STEP を勧める理由(岡野, 2004)
 - ① かつての絶対的権威をもとにした教育方法が、やや行きすぎたところもある民主主義(人に迷惑さえかけなければ、自分の好きなことをしていい)で育った現代の子どもたちには、効果がないということ。
 - ② 日本社会全体としては、欧米型の「自由と責任」をしっかりと教えるような民主主義はまだまったく未成熟であるため。

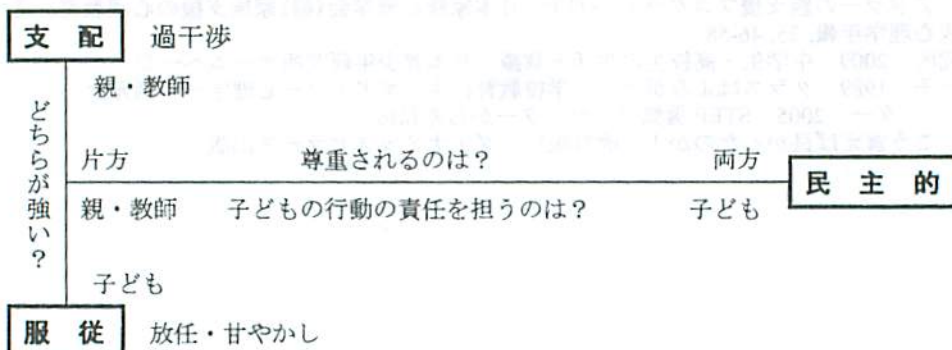
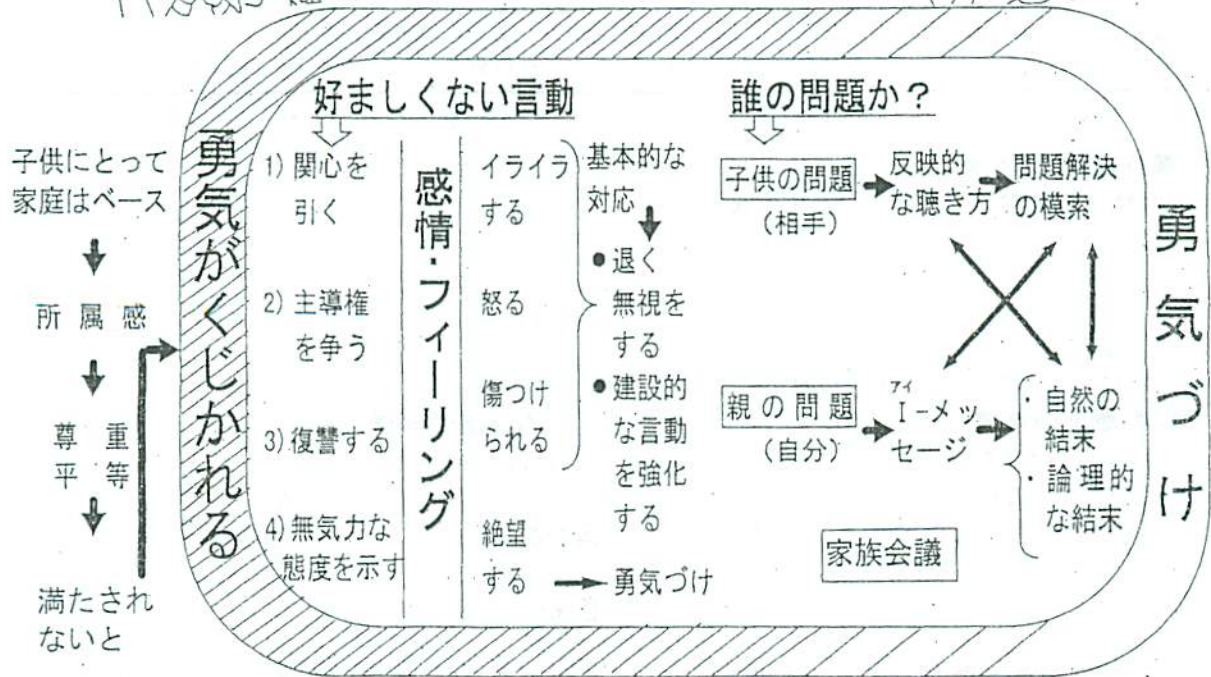


図3. 支配・服従と民主的な関係の位置づけ



STEPの概念



STEP(Systematic Training for Effective Parenting の略)

©2005 STEP勇気づけセンター

図4. STEP概念図 (STEP勇気づけセンター, 2005)

引用文献

Chew, A. L. 1998 *A Primer on Adlerian Psychology: Behavior Management Techniques for Young Children*. A Humanics Publication. (岡野守也(訳) 2004 アドラー心理学への招待 金子書房)

Dinkmeyer, D. & McKay, G. D. 1976 *Systematic Training for Effective Parenting: Parent's Handbook*. American Guidance Service. (柳平彬(訳) 1982 子どもを伸ばす勇気づけセミナーSTEPハンドブック1・2 発心社)

河村茂雄 1999 学級崩壊に学ぶー崩壊のメカニズムを絶つ教師の知識と技術ー 誠信書房

岸見一郎 1999 アドラー心理学入門 KKベストセラーズ

松崎学 2004 アドラー心理学 NPO日本教育カウンセラー協会(編)教育カウンセラー標準テキスト(中級編) 図書文化社, 61-68.

松崎学 2007 アドラーの親支援プログラム STEP 日本家族心理学会(編)家族支援の心理教育ーその考え方と方法ー 家族心理学年報, 25, 46-58.

日本青少年研究所 2009 中学生・高校生の生活と意識 日本青少年研究所ホームページ

野田俊作・萩昌子 1989 クラスはよみがえるー学校教育に生かすアドラー心理学ー 創元社

STEP勇気づけセンター 2005 STEP勇気づけセンターからの私信

柳平彬 2008 こう言えば良かったのか! (改訂版) ダイナミックセラーズ出版

(資料2)

ロールプレイ：太郎くんへのお母さんの支援



④ 子どもが一つの解決策を選んだら、実行したときにどんなことが起きるかを話し合う

⑤ 子どもが決断するようになり、励まし、親子のあいだで約束する

⑥ あひ、うまいくっているの どの親子ももう一度話し合おうと時間を決める



① 反響的な聴き方をし、子どもに自分の気持ちをはっきり認識させる

② 子どもとブレインストーミングをして、さまざまな解決策を考へてみる

③ 考へた方法の可能性を子どもがいろいろ検討できる ようにして、その中から一つを選べるようにする

太郎 わかんない。
母親 そうね、わからないかもしれないわね。でも、太郎にできること、なにかなにかなあ。

太郎 昭一とけんかなんかしたくない。
母親 じゃあ、けんかをしたくないようにするには、どうしたらいいのかしら。

太郎 どうしたらいいかしらね。お母さんと一緒に考えてみようか？
太郎 (泣き止んで) どんなこと？
母親 太郎はどうしたいの？
太郎 昭一とけんかなんかしたくない。
母親 じゃあ、けんかをしたくないようにするには、どうしたらいいのかしら。

母親 仲間はずれになるから淋しいのね。
太郎 うん。
母親 どうしたらいいかしらね。お母さんと一緒に考えてみようか？
太郎 (泣き止んで) どんなこと？
母親 太郎はどうしたいの？
太郎 昭一とけんかなんかしたくない。
母親 じゃあ、けんかをしたくないようにするには、どうしたらいいのかしら。

太郎 そうだな、昭一がいるところへ行かないとか……。
母親 そうね。そのほかにはもうないかしら？
太郎 それから、昭一にもう、けんかを吹っかけないようになさる。
母親 それくらいかな？
(しばらく母親は待ちました)
太郎 いくら考えても、ほかにはもうないよ。
母親 それじゃ、その二つのうち、太郎はどちらがいいと思うの？
太郎 あとのほうがいいと思うんだけど、ぼく。
母親 けんかを吹っかけないようにさせる方法ね。なぜ、そっちのほうがいいのかしら。
太郎 だって、昭一だけじゃなくて、ほかのみんなともっと遊びたいんだもん。
母親 わかったわ。じゃ、昭一君が、もしもまたけんかを吹っかけたら、太郎はどんなふうになれるのかな？
太郎 やりかえずとだめだから、そうだな、知らん顔して相手にしない。
母親 それ以外の方法は？
太郎 ないよ。それだけさ。
母親 もし、知らん顔してたら、どうなるかしら。
太郎 あいつ、きっとぼくをしつこく追いかけてくるね。いやがらせしてさ。
母親 そうしたら、どうするの？
太郎 やっぱり知らん顔してるよ。意地でも相手になってやらない。
母親 さてさて、その先はどうなるかしらね。
太郎 あいつだって、あきちゃって、あきらめると思うんだけど。
母親 あなた、ほんとうにやってみるつもりなの？
太郎 うん、本気だよ。
母親 そう。ほんとうにやろうと思うんだったら、どうかな、一回だけじゃなくて、三日間ほど試してみたら。三日間たったら、どんな具合かまた話し合ってみない？
太郎 ああ、いいよ。了解！